

## 平成30年度 七里ガ浜高等学校 不祥事ゼロプログラム実施状況

### ○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令順守意識の向上（公務外非行の防止、職員行動指針の周知・徹底）	勤務時間外や職場外においても公務員としての自覚をもち、社会人としてのマナーやモラルを踏まえた行動をとる。	事故防止会議において不祥事防止啓発資料を用いて全職員に教育公務員としての基本姿勢や服務規律について再度確認を行った。また、打合せの時間などを用いて職員の行動指針について周知徹底を図り、職員に公務員としての自覚を植え付けながら、高い倫理意識のもとに行動するよう促した。
わいせつ・セクハラ行為の防止	セクハラ・わいせつ行為を未然に防止する。	事故防止会議において、セクハラに関する啓発・点検資料を活用し、セクハラの原因とどのような行動がセクハラに当たるかについて研修し、セクハラ行為の防止を全職員で確認した。
成績処理及び進路関係書類に係る事故の発生を未然に防止する。	成績処理及び進路関係に係る事故の発生を未然に防止する。	関係機関で成績処理や進路関係書類作成の手順を再確認して、特にミスが起こりやすい部分の点検体制について見直しを行い、関係職員へ周知を図るとともに、相互のチェック体制を整えて事故防止に努めた。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	個人情報等を適正に管理し、情報の流出を未然に防止する。	教務手帳、答案等の重要情報の持ち出し禁止と管理を徹底した。定期試験から成績処理終了までの期間のシュレッダー処理を禁止とした。答案返却のルールを定めて、答案誤廃棄を未然に防いだ。USBメモリの棚卸を行い、利用を原則禁止として情報流出に係る可能性未然に防止した。
会計事務の等の適正執行（備品の現物確認）	私費会計の適切な執行についての認識を深め、事故の発生を未然に防止する。	私費会計基準を周知・徹底させ、適切な私費会計処理を行うよう、全職員を対象に研修を行った。また、日頃から現品確認や会計処理について指導を行うことで、職員が適正な会計処理の執行について認識を改め、事故を防止した。
入学者選抜に係る事故防止	入学者選抜に係る事故を未然に防止する。	入学者選抜の業務について検証し、情報処理や採点・点検作業等、手順を確認しながら点検体制を構築して事故防止に努めた。面接検査ではシミュレーションを行うことで、適切な面接および評価基準を徹底した。不測の事態に対するシミュレーションを実施した。
体罰、不適切な指導の防止	体罰、不適切指導の発生を未然に防止する。	事故防止会議において、体罰防止・人権に配慮した指導について研修を行い、全職員が日頃の言動について点検して体罰や不適切な指導を行わないよう確認した。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故の発生を未然に防止するとともに酒酔い、酒気帯び運転をゼロにする。	年末年始などに、酒気帯び、酒酔い運転の禁止について全職員で確認し、教育公務員として絶対に飲酒時に運転をしないことを確認・共有した。
業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	各種業務執行に際して、職員の意識やシステムの適正化を図り、事故を未然に防止する。	校内ポータルサイトや打合せの利用、日頃の声かけなどによって各種業務が適正かつ円滑に遂行できるようにするとともに、孤立化する教員が出ないように情報の共有化に努めて複数の教員で業務にあたり、事故を未然に防止した。

○ 平成30年度不祥事ゼロプログラムの達成状況及び平成30年度に取り組むべき課題

(学校長意見)

日ごろより、時宜に応じて事故防止会議や職員研修を通して、全職員に対して事故・不祥事防止について意識の喚起を行ってきた。今年度も大きな事故・不祥事を未然に防止することができたことには、一定の評価をしたい。

しかし、事故・不祥事は少しでも気を緩めたことを綻びとして発生し、些細なことが、いつの間にか取り返しのつかない事態へと転がるものである。来年度以降も事故、不祥事の原因となる事項にはしっかりと目を凝らして、何か気になる点があったら、それを見逃すことなく地道に一つひとつ対処をしていくことが必要である。

年度が改まるに際して、もう一度襟を正して事に臨むことを確認し、引き続き事故・不祥事を未然に防止することを徹底して行く。

そのためには、常勤の教員だけでなく、非常勤講師および事務職を含めた全職員で共有することが肝要である。今後は事故防止会議に出席しない事務職や非常勤講師に対しても、いかに不祥事ゼロを徹底していくかが課題である。